
永遠の花コトバ

鏡音リン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

永遠の花コトバ

【Nコード】

N8069M

【作者名】

鏡音リン

【あらすじ】

z i m i n a t u b a k i g a

私の名前は椿。

趣味は花を育てたりする事、私は地味で皆に陰口をよくいわれたりする、

「おーい、椿ー次移動教室だから行くよ？」

「あつゴメン、・・・」今話しかけてくれたのはリンちゃん
明るくて優しく、私とはまったく正反対・・・

地味でみんなから嫌がられてた私にリンちゃんは話か

けてくれた

「ねえ、私同じクラスのリンよろしくね^^あなたは？」

「あつわわたしは、椿です・・・」

「椿、よろしくね^^」

「あつうん、」私はとっても嬉しかっただってこんな地

味で皆が

嫌がるような私に喋りかけてくれる何て・・・

「キンコーン、カンコーン」

「あーやつと授業終わったね^^」

「うん、」

「ねえ椿今日一緒に帰ろあ？」

「あつゴメンなさい、今日お花の手入れしないといけな

いから・・・

ゴメンね・・・、」

「いいよ、全然気にしないで^^」

「本当ゴメンね・・・」

「うんうんまた今度一緒に帰ろうね^^、バイバイ」

「うん、バイバイ^^」

ー椿が花壇の手入れをしようとするとボールが飛

んできたー

「おい、どこにボール飛ばしてんだよ^-^」
「ごめんごめん、ミスった」
「どうしよう、花壇の花が・・・」
「大丈夫？手伝うよ」
「あっありがとう・・・」
「- 手伝ってくれたのは学校1モテている、咲音祐-」
「じゃっ、行くね？」
「あっありがとう」
「どういたしまして^^」
「かっかっこいい・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8069m/>

永遠の花コトバ

2010年11月3日13時50分発行